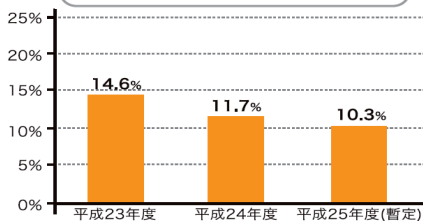


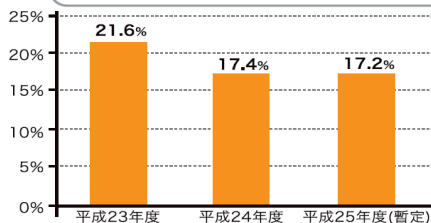
気分の落ち込みや不安に関して
支援が必要と考えられる人の割合



測定尺度：K6※1

気分の落ち込みや不安に関する
6項目に0～4点で回答
合計13点以上で、気分障害や
不安障害の可能性を疑う

被災で生じた「トラウマ反応」に関して
支援が必要と考えられる人の割合



測定尺度：PCL※2

被災体験に対して、時々起こる
問題や訴え（トラウマ反応）
に関する17項目に1～5点
で回答
44点以上で、PTSDの可能性
を疑う

第11、15、17回福島県「県民健康管理調査」検討委員会資料より作成

こころの健康に関して支援が必要ではないかと判断された方の割合は、年々減ってきています。しかし、K6の平常時の全国平均が3%程度ということと比べると、まだ3倍以上の方の気分障害や不安障害の可能性が高いことが示されました。

また、2割近くの方は、被災によって生じた「トラウマ反応」が長引いている可能性があります。

※1：K6＝気分の落ち込みや不安の程度を測る尺度（＝ものさし）

気分の落ち込みや不安に関する6項目（例：「神経過敏に感じましたか」「絶望的だと感じましたか」など）について、それぞれ過去30日間にどれくらいの頻度であったかを回答していただきました。この項目は16歳以上を対象に実施。この項目によって気分障害や、不安障害の可能性について、日常生活に支障をきたすレベルかどうかを判定しました。

※2：PCL＝トラウマ反応を測る尺度（＝ものさし）

被災の体験に対して時々起こる問題や訴え（トラウマ反応）に関する17項目（例：「そのストレス体験の、こころをかき乱すような記憶、考え、イメージ（光景など）を繰り返し思い出す」「そのストレス体験の、こころをかき乱すような夢を繰り返し見る」など）について、それぞれ過去30日間にどれくらいあったかを回答していただきました。この項目によって、トラウマ反応の強さについて判定しました。

本資料への収録日：2015年3月31日

関連Q&A

・6章 QA76 調査票による調査で、こころの悩みを見つけることが本当にできるのですか